

令和8年度

都留市消費者安全確保地域協議会・都留市高齢者等 SOS ネットワーク会議 摘録

【開催概要】

日時：令和8年7月27日（月）午後1時30分～3時20分

場所：都留市役所3階大会議室

【出席者】

山梨県大月警察署、山梨中央銀行都留支店、山梨県民信用組合都留支店、都留信用組合桂・小沼支店、都留郵便局、東桂郵便局、都留朝日郵便局、都留中央二郵便局、都留上谷郵便局、山梨県民生活センター、東京電力パワーグリッド株式会社、富岳通運（株）都留支店、富士急山梨ハイヤー（株）、富士急バス（株）大月営業所、NPO法人ヒダマリ、生活協同組合ユーコープ 都留配送所、山本新聞店、都留市民生委員児童委員協議会、都留市社会福祉協議会、富士山麓電気鉄道（株）、都留市消防署本部、本市福祉課、本市市民課市民窓口担当（事務局）、本市都留長寿介護課包括支援センター（事務局）

1.開 会

2.あいさつ

都留市消費者安全確保地域協議会会長：市民部長

高齢者等 SOS ネットワーク会議所管：福祉保健部

～市民部長より代表あいさつ～

これまで「都留市消費者安全確保地域協議会」と「都留市高齢者等 SOS ネットワーク」は個別に開催していましたが、両者の「見守るべき対象者」と「地域の見守り手」については双方が深く重なっているため、今回、初めて合同で開催することとなりました。本会議が、皆様の横のつながりをさらに強める結節点となることを心より祈念いたします。

3.都留市消費者安全確保地域協議会

(1) 令和7年度報告及び令和8年度の年間計画について

<事務局 市民課> 「資料1」に沿って説明。

- ・協議会の概要や目的、設置の背景と課題について。
- ・令和7年度の実績について。設置初年度として、会議体・研修・啓発の三本柱を実行。
- ・令和8年度計画について。運用の質を高める年度となるよう、会議・研修・啓発・運用通年の四本柱で実効性を検証。

<今後の予定>

* レベルアップ研修（2 回目）：9 月 4 日（金）開催予定

* 広報・啓発活動：啓発ポスターの掲示や啓発用ポケットティッシュの配布。

産業まつり（10 月 25 日（日））にて配布予定

《質問・意見》なし

(2) 先進地（埼玉県吉川市）への視察報告について

<事務局 市民課 消費生活相談員、都留市東桂郵便局局長>

「資料 2」に沿って説明。

吉川市の運営実績 8 年間で 150 もの事業所を巻き込む巨大なネットワークを構築されていることや協力事業所に個人情報の判断まで求めず、「気づいたら通報する」という役割に絞っていた工夫、通報を受けたら行政（包括や社会福祉協議会など）が動くという円滑な運営方法について学んだことを報告して、都留市の協議会だから出来ることにつなげていきたい旨を報告。

《質問・意見》なし

(3) その他

《本協議会全体に関して質問・意見》なし

4.都留市高齢者等 SOS ネットワーク会議

(1) 都留市高齢者等 SOS ネットワークについて

(2) 現状と取り組みについて

(3) 情報伝達訓練について

<事務局 長寿介護課>

「資料：都留市高齢者等 SOS ネットワーク会議」に沿って説明。

- ・ 見守りや支援が求められる背景や取り組み（見守りシール）の活用事例、活用件数について。
- ・ 情報伝達訓練：9 月 15 日（火）に実施予定。

《質問・意見》なし

5.管理者向け研修

・研修に先駆け、認知症についての講座

＜事務局 長寿介護課＞ 「資料：認知症の理解」に沿って説明。

・グループワーク

《進行》C-table（シーテーブル）：本田 様（認定ワークショップデザイナー）

高齢者の安全を守る「一体的見守り体制」の構築を探る

～消費者被害防止と SOS ネットワークをつなぐ、組織間連携と管理者の役割とは？～

【事例】

現場の窓口担当者から「カードの暗証番号を忘れて、月に何度も再設定の申請に来られる高齢のお客様がいる。手続き自体は、いつも問題なく終わるが少し気になる。」という報告をあなた（管理者）が受けました。このままでよいのでしょうか？

＜グループワークの流れ＞ ＊4～5人を1グループとしてワークを実施。

①個人ワーク

各自、事例の報告を受けた場合、「どのように対応するか」、「対応する中で苦慮すること」、「外部への相談」について検討。



②グループ内で共有、討議



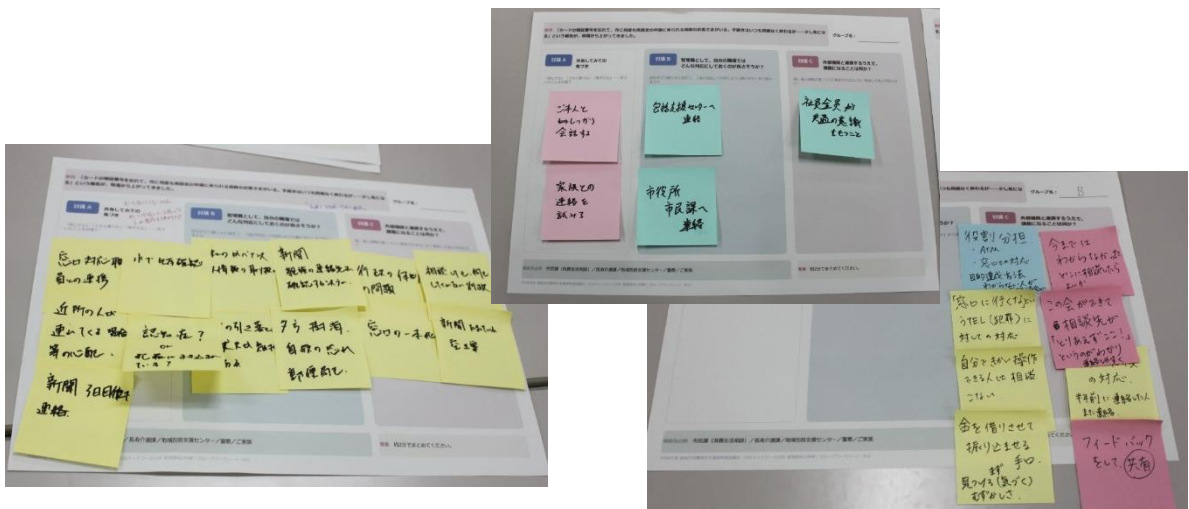
⑤発表準備



⑤発表

(一部抜粋)

- ・お客様が何に対して執着（心配）しているかを聞き取ることが大事。必要に応じて関係機関から警察へも連絡してもらえると、情報共有ができる。
- ・事件性がある場合は警察への連絡と認識しているが、これまでどこに相談してよいかわからない対応について、市民課へ連絡したことで連携がとれた。
- ・構成員同士は情報共有ができるので、関係機関と連絡をとる必要がある。関係機関へつなげた後、結果についてフィードバックがあると今後の参考になる。
- ・連携をどうしたらよいか、協議会構成員の情報連携の流れを作ることが大切だと思う。



《総評》

●都留市長寿介護課包括支援センター：天野（認知症認定看護師）

支える人が顔見知りになることで安心して連絡できる関係性を築くことができ、信頼関係が出来ます。安心して都留市で暮らし続けるため、それぞれの立ち位置でできること、役割について「愛を持って考えていただく」。本会議が連携の第一歩となるよう、ぜひ積極的に活用していただきたいと思います。

6.その他

＜C-table（シーテーブル）：本田 様＞

見守り体制の構築には職場での仕組みづくりが大切だと感じました。

7.閉会

出席者へアンケートご協力のお願いをしました。

以上